1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800044		
法人名	特定非営利活動法人 水度坂友愛ホーム		
事業所名	グループホームゆうあい寺田		
所在地	京都府城陽市寺田乾出北45		
自己評価作成日	平成26年12月16日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosyoCd=2692800044-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との絆を大切に、ご本人が尊厳ある生活を送れるようサービスを提供している。そのためにも、家族ができること、ご本人ができること、そして事業所の役割を理解しあいながら日々のケアを行っている。ご本人が生き生きと毎日をご過ごせるよう、下肢筋力の強化を図る歩行訓練や体操に取り組み、「ピンピンコロリン」と最期の時まで笑顔で暮らせる事業所を目指し努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは入居後も本人と家族との絆を大切に考え、家族には毎月面会に来てもらったり盆や正月には自宅に戻り家族と共に過ごせる時間をもてるよう依頼し、また家族からの意見も大切に職員や看護師を交えて速やかに話し合い対応しています。運営推進会議では行政や地域、家族会、医師など多彩な参加者を得て開催し、地域の高齢者問題も含めて共に話し合う有意義な会議となっています。また物忘れ予防教室の開催など地域に向けた様々な取り組みや調理や園芸など多彩なボランティアの来訪など、地域に開かれたホーム作りを併設施設と共に行っています。「暖かい心 優しい手 そして笑顔」とのキャッチフレーズの下、施設全体での協力体制も整い、職員の離職も少く利用者と馴染みの関係を築き最期までその人らしく過ごせるよう支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和することで、スタッフ全員と共有し、実践につなげている。年度初月には理念と運営方針の研修会に全員出席し、浸透に努めている。	法人理念の基、具体的に分かり易い「暖かい心 優しい手 そして笑顔を」とのキャッチフレーズを掲げています。年度初めに理念について学ぶ機会を持ち理念に沿った支援や方針を話し合っています。ホーム会議や法人会議など様々な会議の中や半期毎に運営や日々の支援が理念にそって実践できているか振り返り確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の左義長(新春の集い)に参加したり、問うホームでの夏祭り行事等への参加を呼びかけ、交流を図っている。	自治会に加入し地域行事に参加したり、調理や園芸、化粧や行事など多種多様なボランティアの来訪が多くあり交流しています。幼稚園児との交流や花見や夏祭りなどの施設行事の際は地域に案内し子供たちの参加を得て共に楽しんでいます。また物忘れ予防教室の開催や多目的室をサークル活動に開放するなど、施設全体で地域に開かれた交流が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防教室や花植え事業をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、話し合いを行っている。	会議は家族会会長や行政、地域関係者など多彩なメンバー構成の下開催しています。年度毎にテーマを決め話し合ったり、ホームや行政、地域、家族会などが其々の立場での活動や共に支える支援について意見交換をしています。活発に意見や提案が出されており、医師による認知症の勉強会の実施など運営に活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	城陽市地域密着連絡会議を通して取り組みを伝えるとともに、課題解決に向けての事例検討をし、サービスの質向上に努めている。	運営推進会議や市主催の地域密着型連絡会に市担当者の参加があり、情報を得たり、意見交換をしています。施設の健康教室や認知症予防教室の取り組みなど関わる機会が多くあり、連携しながら運営しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会は必ず年に1度行い、スタッフの理解を深め拘束しない意識と環境づくりに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみとしている。	行政の身体拘束に関する資料を基に研修を実施し職員に周知しています。言葉掛けやエプロンの使用、自身で立てないソファなど具体的に事例を挙げ、目に見えにくい拘束についても一緒に考え意見交換をしています。出入り口の施錠は行わず、利用者が外出したい時は個々の思いに合わせ添うようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、施設内勉強会をしている。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場合には管理者間で話し合い、活用できる体制にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族からの意見や要望があった場合は、その日のミーティングで提案したり、ケア会議にて検討をし、運営推進会議の場で話をするという機会を設けている。結果はスタッフ間で共有し、運営に反映させている。	利用者の意見は日々の関わりの中で聞きその都度ケアに反映したり、家族は日頃から面会が多く来訪時にコミュニケーションを図る中で聞いたり、面会に出来ない家族には電話で様子を伝え意見がないかを聞いています。家族からできるだけ歩いて欲しいという要望や食事の際のエプロンの見た目などの意見が出されており、職員間や看護師を交えて話し合い対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低でも年に1度はヒアリングを行い、スタッフの意見を聞くように努めている。また、その意見や提案は、センター会議の議題に取り上げ、運営に反映させている。	職員はミーティングや日々の業務の中、カンファレンスノートなどを用いて活発に意見や提案を出しています。理事長に直接意見を伝えることもでき、センター長や管理者による定期的な個別面談の機会もあり、意見を出しやすいよう工夫しています。職員は物品管理や研修、栄養などの担当を担っており、半期ごとに点検や振り返りを行い業務改善やサービスの向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が就業環境についてスタッフからの声を聞き、管理者会議を通して代表者に伝えているため、環境はその都度整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会には理事長がスーパーバイザーとして参加し、OJT等を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着会議で、勉強会、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用されていたサービス事業所からの情報も活用しながら話し合いを持ち、ご家族が安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配なことがあればいつでも連絡をいただけるような説明に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議を開き、多職種で話し合うことで、必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きやご本人の洗濯物の片づけなどを一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの役割、家族の役割を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人とは日常の会話を通して馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。 人に会えるように家族とともに支援を行っている。	施設で開催している認知症カフェに知人が来られたり、友人が面会に来られる事もありゆっくしてもらえよう配慮をしています。懐かしい宇治橋や伏見などに出かけたり、教会のミサに参加できるよう職員が付き添っています。また友人に会いに来てもらうよう家族に依頼したり、家族の協力を得て墓参りに行く方や年末年始は利用者に自宅に戻ってもらい家族と一緒に過ごせる時間も大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで一緒にTVを見ながら話をしたり、食事を共にすることで互いに関わり合い、支えあえるよう支援している。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了になっても、必要に応じて相談を受けるなどの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動等をよく観察し、多職種で話し合いご本人本位のサービスを行っている。	併設施設からの入居が多く情報を引き継いだり、本人や家族からも十分話を聴き意向の把握に努めています。入居後は日常の関わりの中で思いを聞いたり、何時もと違う様子や言葉を個人記録に記載し、職員間で共有しています。思いの把握が困難な方は家族に聞いたり、生活歴も参考に本人本位に思いを汲み取れるよう話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から十分に話を聞き、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の行動やケアをするなかで、状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やミーティングで話し合いをし、計画に反映している。	介護計画は家族の面会時に合わせてサービス担当者会議を開き、ケアマネジャーや担当職員、医療的な課題のある方は看護師の参加を得て、意向や課題について話し合い作成しています。3ヶ月毎にモニタリングを行い計画の実施状況を確認し、変化の無い場合は6ヶ月毎に再アセスメントを行い現状を把握し、介護計画の見直しに繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやカンファレンスノートを活用し、情報を収集している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署と連携をとり、個別のニーズに対応できるようにしている。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、密着会議で地域資源の情報を集めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の思いを大切にしながら看護スタッフを中心に、ケアスタッフ、計画作成担当者などが一つのチームとなって、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医を継続できることや協力医についても説明し決めてもらっています。現在は全員が24時間対応が可能な協力医に変更し2週間に1度の往診の他、随時往診を受けています。専門医への受診は家族が付き添い、状況に応じて職員が同行することもあり家族と情報を共有しています。また希望や必要に応じて訪問歯科の治療、定期口腔ケアを受けることができ、職員の看護師が協力医と頻りに連絡を取り連携しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝夕の引継ぎで、看護職に情報を伝え、その都度相談、指示を受けるなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、病院関係者と面談し、情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携についての説明を行うとともに、年2回のサービス担当者会議で、終末期の在り方にも触れ、方針を家族とともに確認しあいながらチームで支援に取り組んでいる。	設立時から看取りを視野に入れて取り組んでおり、入居時にはホームの看取り支援について説明を行いサービス担当者会議毎に意向を再確認しています。医師や看護師と連携し、家族の頻回な面会など家族と共に利用者を支え支援に取り組んだ経験があります。支援後にはカンファレンスで振り返る機会を持ち、今後は勉強会を行う予定としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修などで応急手当についてや事故発生時の連絡方法等について学んでいる。また、普通救命講習会を開き、初期対応の訓練を実践的に身に付けるよう学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器訓練は年4回行い、避難訓練は年2回行っている。(内1回は夜間想定避難訓練)	年に2回消防署の協力を得て訓練を実施し、1度は昼間を想定し施設合同で行い、独自には夜間を想定し夜勤者と当直職員の2名体制を想定し行っています。通報や避難誘導、スモーク体験なども盛り込み、運営推進会議に合わせて開催したり、地域に案内を配布するなど協力体制作りにも努めています。また水消火器などの訓練を年4回繰り返し実施し災害に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けをするよう努めている。スタッフ同士の間でも声掛けに気をつけ合うことで、温かい雰囲気づくりに努めている。	職員は職業倫理や個人情報保護などの研修を受講し学ぶ機会を持っています。利用者は人生の先輩として意識した対応に努め、昔呼ばれていた呼び方など本人が分かり易いよう個々に合わせて対応しています。不適切な対応があれば管理者や職員間でも注意し、ミーティングなどで話し合っています。また排泄や入浴の際には羞恥心に配慮した声掛けや対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言葉かけの中で信頼関係を築き、本人の意向を聞き出すように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の特徴を生かし、その人らしい暮らしができるよう見守りながら、できるだけご本人のペースでの生活に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの櫛や整髪料で毎日身だしなみを整えて、おしゃれを楽しんでおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳の手伝いや食後の食器を拭いてもらうなど、スタッフと一緒に楽しむ支援をしている。	平日の昼食は施設の厨房で作られた食事を提供し、利用者の好みや意見などは随時厨房に伝えていきます。ホームで作る際には利用者の希望を聞きながらお好み焼きや焼きそばを一緒に作ったり、寿司やファミリーレストランなどの外食の他、おやつ作りや家族交流会ではバーベキューなどを家族と共に楽しんでいます。職員も利用者と共に食卓を囲み同じ食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が心配な入居者については、水分チェック表などを用いることもある。また月1回の食事のカロリー計算も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い清潔保持に努めている。本人のできない部分については介助をしている。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合ったケアをすることで、紙パンツ使用から布パンツ使用に切り替えた入居者が数名おられる。	排泄記録を参考に個々の排泄リズムを把握し、失敗に繋がった原因や皮膚トラブル、薬の影響なども加味しながら本人に合った間隔や支援方法を検討しています。失敗が減ると布の下着に変更したり、夜間は紙パンツを使用する方も日中ではできるだけ布の下着で過ごせるよう配慮し、対応方法を柔軟に変更しながら失敗なく快適に過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況は常にチェックし、個々に応じた飲料や食品の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおよその曜日や時間帯は本人の状態に合わせて決めているが、その時々体調を考慮しながら入浴支援にあたっている。	入浴は週に3回を目安に希望を聞きながら日中の時間帯に入ってもらい、見守りで入れる方は早朝や夜間も対応しています。頂き物の柚子やドクダミの葉などを入れ入浴を楽しんでもらったり、二人介助が必要な方は併設施設の広い浴室を利用して入ってもらっています。入浴をしたくない気分の方には職員の交代や時間を空けたり、次の日にするなど無理の無いよう柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるよう、リネン等の清潔を保っている。また、個々の状態に応じて昼寝などの休息ができる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬の一覧表を看護職に作ってもらい、目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋やピアノなど、入居者の張り合いにつながるようなことをしてもらおう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンサートや地域の催しなどがある場合には、本人の希望を聞きながら外出している。また、家族と協力しながら本人の希望に添える支援にあたっている。	気候が良い時期は季節の花が多く植えられた広い庭に出て、水やりなどの世話をしたり、気分転換を図っています。季節の紅葉狩りや地域行事、ショッピングセンターなどに出かけたり、併設施設との合同の外出行事や法人の他施設との行事も多く、互いに行き来しています。また外出を好まない方にも声をかけ出掛ける機会が持てるよう配慮しています。	

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「預り金」として職員が管理しているが、本人の希望に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からご本人に電話をかけていただき、会話を楽しんでいただく支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花を飾ったり、トイレの壁に絵を飾ったりと、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。また、室温や湿度にも気をつけ快適に暮らせる空間づくりに努めている。	リビングは天窓から明るい光が入り、季節によっては日よけを用いて入る光を調整しています。高さや座り心地の違う椅子やソファを置き好きな場所を選び過ごせるよう配慮したり、トイレの場所を分かり易く表示しています。行事の写真などを飾ったり手作りのカバーなどを用いて温かい雰囲気作りを行っています。また玄関周りや広い庭では季節の花や野菜を育て、利用者が季節を感じながら過ごせるよう配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合った入居者同士がソファに座ったりと、個々が落ち着ける居場所できつろげるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いなれた家具などを配置し、居心地よく違和感なく過ごせるよう工夫している。	入居時には自宅で使用している物やぬいぐるみ等の心が休まるような物を持参してもらおうよう家族に伝えています。利用者はタンスなどの家具を持参し過ぎしやすいよう配置したり、アルバムや好きな本などを持参しています。安全面に配慮しながら、これまでの生活習慣に合わせて安心できる居室となるよう配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮した物品の配置に努め、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		